

海外薬学実習で印象的だったこと

薬学部 5年

今回の海外薬学実習の参加は、病院・薬局実務実習から得た臨床現場での経験や情報をもとに日本とアメリカの薬剤師の相違点を知ることが目的でした。渡米前は自身が疑問に思うことについて明確にできませんでしたが、NSUでの見学を通して、情報収集のみでは知ることができなかったことを知ることができたと思います。

今回の見学で様々なことを学ぶことができましたが、その中でも特に印象的だったことは学生の教育環境と日本にはない制度があることです。

薬剤師としての在り方や必要な知識だけでなく、薬学生の教育環境や臨床を見据えたカリキュラムの設定は日本にはない制度だと感じました。反転授業や症例問題を多く取り入れ、学生が積極的に発言できる環境は、考える力を養うのに効果的であり、臨機応変な対応が求められる際に柔軟な対応が出来ると感じました。また、病院・薬局実習において、自ら選択して学ぶことができる環境は、薬剤師になった際に多くの知識や技術を活かしていくことができ、臨床現場に出た際に即戦力になると感じました。そして、学生生活の中で将来の薬剤師像を明確化できることは、自身が学ぶべきことや行うべきことが明確になり、就職してからの人生の見通しが出来る点が、大きな違いだと感じました。

日本にはない制度である ICUBA Care や MTM Call Center は、アメリカの医療保険制度の特徴を活かしていると感じました。日本の大学でも医療保険について勉強をしますが、保険について学んだことを活かすシステムはあまりないと感じます。その点において、アメリカでの職務は多岐にわたり、学んだことを活かせる環境にあると感じました。また、薬局見学におけるクリニカルサービスやワーファリンクリニックの実施も印象的でした。特に患者さんから直接得た検査値から投与量の妥当性を判断し、投与量の変更後はモニタリングする点においては、医師と同等のことが行える面もあり、薬剤師としての幅が広がると感じ、印象的でした。

この2週間を通して、自身が知りたいと考えていたこと以上に、多くのことを学ぶことができたと思います。今までは日本の病院薬剤師と薬局薬剤師について重きを置いていましたが、渡米したことで日本と比較することが可能になり、日本とアメリカの双方の特徴を知ることができたと感じました。これを知ったことで、自分の考え方にも変化が見られるようになり、貴重な体験ができて良かったと感じました。海外薬学実習で得た知識を、自身が薬剤師になった際に、日本に合わせた形で活かせるよう知識を深めていきたいと思っています。